

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価の調査項目です)

取り組んでいきたい項目

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	市民センター、町内会との連携を行い地域の方々との触れ合う機会を作る。地域の方より畑を借りて野菜づくり、ホーム前の公園のボランティア清掃、地域の子供達(小学校区)と市民センターのキッズクラブを通じて交流等を行っている。毎年年末に地域の方との餅つきを行っている。年4回を目標にもやい便りを発行地域へ回覧しホームを知ってもらう。	○	地域の保育園との交流を図る為、現在打ち合わせ中。野菜作りが出来るようになったら、野菜を利用して地域の方々との料理、食事会を行っていくことを検討中。気軽に立ち寄れる場を目指している。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム理念を目のつくところへ貼っている。(その人らしく、あるがままに)入居者の居室担当者により、個別支援の検討、取り組みを行っている。入居者一人ひとりの声を聞いて、やりたいことの実現に向けて計画実行する。	○	近所のうどん屋へ出かけ昼食をしたり、花の好きな方は花の苗を花壇植えたり、裁縫の好きな方に食事用のランチョンマット製作を行った。現在、デイサービスに参加、地域ふれあい昼食会の参加や市民センタークラブ参加も計画中。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営推進会議に参加してもらい、地域とのかかわりについて理解していただくと共に、ご本人の状態や様子等の連絡を頻回に行っている。またもやい便りを配布したり、ホーム内に地域交流の様子を掲示することを行っている。	○	4月末に家族会を予定、ホームのご理解と家族との交流を図れる場を検討中。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	地域散歩の際、入居者への声かけをしてくださり、こちらも立ち寄ってくださるように声をかけている。	○	実際に近所の方が声をかけてくださるが、立ち寄るまでにいたっていない為、今後さらに交流を深め、気軽に立ち寄れるようにしていきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に参加し、地元の方との交流に努めている。地域交流として年末の餅つきや公園の清掃、消防訓練等を行っている。回覧板にてホームを知ってもらう為、町内にもやい便りを回覧、入居者と一緒に近隣のお宅へ回覧板の受け渡しを行っている。	○	今後、地域交流を図る為、行事を検討していきたい。

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の方との話し合いにより、今回公園の清掃や、畑の提供をしてもらうことが出来た。また子供達との交流の機会を持てようになった。	○	地域の子供達には祖父母がいない、知らない方も多く、今後の交流により、体験のない時代の話（戦争時代等）を伝えていけたらよいのではと、話し合っている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年の結果を踏まえ、課題となる点において取り組みを行って来た。理念に基づいての目標の取り組み、スタッフ研修等を毎月行い、事例検討等を行うとで職員個々のレベルアップにつながった。	○	今後も評価を活かし、ホーム運営内容を振り返り、改善できる機会として活用していきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での報告により、地域との取り組みや、サービス向上につながる貴重な意見をいただくことが多く、実際の取り組みにも活かしている。（公園清掃、畑を借りる、子供達との交流）	○	地域の方との交流の機会を作るきっかけとして運営推進会議での話し合いによる意見交換は大変重要な場となっている。地域高齢者とかかわりと、グループホームが地域に協力できることに取り組んでいきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターの方や、介護サービス相談員の派遣事業の利用等を行い、情報交換を行っている。	○	地域包括支援センターとかかわりは、大変重要で、今後も情報交換等をおこなっていききたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	随時、外部研修等で学び、毎月内部勉強会を実施、職員で学びを深める機会を設けている。又、必要な方には制度についての説明を行っている。	○	今後も随時学びの機会を作り、制度等の理解を深めて活用できるようにしていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	3月度の勉強会にて事例を交えて勉強会を行い職員で話し合いを行った。どんなことが虐待になるのかの意見交換をおこなった結果防止に対して改めて考えることが出来、今後の対応に注意を払っている。	○	今後、随時事例検討会を行い、学ぶ機会を持ちたい。

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	運営に関することや、ホームの理念を話し、ご家族の不安や疑問点に対し、小まめに連絡相談を行い、理解を図っている。	○	現在まで問題等はないが、細かな部分での不安、疑問に対して、納得の行くようにしていきたい。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置、ご家族からの直接の苦情等の相談窓口（管理者）を設け、率直な意見を話していただくように、日ごろからコミュニケーションを取るよう配慮し、意見内容は、職員で話し合い改善していくようにしている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	随時、面会時や、電話連絡等、により報告を行っている。又季節ごとのもやい便りを発行し配布している。	○	今後、毎月の行事や様子をお便りにて報告することを検討している。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置、ご家族からの直接の苦情等の相談窓口（管理者）を設け、率直な意見を話していただくように、日ごろからコミュニケーションを取るよう配慮し、意見内容は、職員で話し合い改善していくようにしている。	○	現在、家族交流会を予定、今後の運営に関する貴重な意見の場として定期的に行うように考えている。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティング等で意見交換の場を確保、運営に反映させている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者支援の状況に応じて職員の確保や時間帯の検討を行っている。夕食後に入浴する方に対して、遅出時間帯変更を行っている。又、行事等による安全を図る為、職員確保に努めている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者、職員との話す機会を作り、面談等で解決できるように配慮している。やむを得ない職員の離職等がある際は、ダメージにつながることをないように、人員確保に努めている。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○ 人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の年齢層は幅広く、シルバー人材等も行っている。職員個々の能力や自己実現を考え、社会参加の希望等に配慮している。(研修等は積極的に参加できるようにしている) 研修参加や資格取得に向けて勤務的な配慮や自己実現へ向けてのアドバイスや資料配布を行っている。	○	職員へのアンケート等により、個々の意見や仕事に対する希望を反映できるように取り組んでいる。今後職員面談を行いコミュニケーションを図り、能力が活かせる場となるように取り組んでいきたい。
20	○ 人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	外部研修において繰り返し、研修に参加し、職員全員に内部研修でおろすようにしている。	○	今後、事例を交えての研修をおこなっていききたい。
21	○ 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	段階に応じての研修参加や、資格取得の為の勤務的な配慮を行っている。内部においては、毎月職員で考え調べた勉強会を行い、知識向上トレーニングにつなげている。	○	今後、研修等に積極的に参加できるように配慮し、知識向上につなげるように考えていきたい。
22	○ 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームが見学に来る機会を作り、意見交換を行っている。同業者参加による勉強会での交流機会を図っている。	○	今後、当ホーム他事業者への訪問等も考えていきたい。
23	○ 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休憩時間、休憩場所の確保や職員の心身状態に配慮し、気軽に相談やアドバイスが受けられるように声かけを行っている。	○	認知症の対応において職員のストレス軽減は精神安定を図る上で大変重要である。現在不定期に親睦会等を行っているが、今後定期的に行なっていくことを検討していきたい。
24	○ 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員個々人の仕事に対するアンケートなどにより、想いを把握し、資格習得等の支援をしたり、担当を決めたりしている。	○	職員が持てる力を発揮できる場を作ったり、各人の向上心がもてるように、努力の成果を把握できるように取り組んでいきたい。

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用前にご本人との面談を行い、対話の中で少しでも信頼関係を作れるように努力をしている。 本人の生活環境や性格等を把握し、出来るだけその方に合わせた支援が出来るようにしている。		
26	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用までに何度も連絡、相談等の機会をつくり、受け止めることが出来るように努めている。		
27	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族の必要としている支援を傾聴、検討し、利用できるサービス利用も視野に入れ対応するように努めている。 実際にはデイサービスや骨折退院後、リハビリ、精神状態等の悪化により精神科の受診を行ったりと安定した生活が送れるように努めている。		
28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前よりご家族と話し合いの機会を作り、本人の生活歴や、性格等に配慮し、馴染める環境が提供できるように工夫している。なじみの物(使い慣れたもの)や居室内の配置も配慮している。	○	体験入居や、気軽に遊びに来れるような環境作りを行っていききたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の意向や職員へのアドバイス等に耳を傾けている。(調理の方法等入居者の人生経験による学びを傾聴し、活かしながら支えあう関係作りを行っている。	○	利用者個々人の体験や能力活かし、共に学びあえるような機会を作りたい。
30	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	行事や外出等を共に過ごし、支えていく関係を築いている。	○	今後、ご家族や職員と共に本人とのかかわりが持てる機会を考えていきたい。(家族交流会予定)

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
31	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	誕生会等を通じて交流の機会を作り、家族のように手伝っていただくなどよりよい関係が築いていけるように支援している。	○	今後も家族会などの交流の機会を作り、より良い関係が出来るように、働きかけていきたい。
32	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人の方との再会や、なじみの場所へ出かける等の個別支援を行っている。		
33	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係が築けるように、仲の良い同士のふれあいの場を作ったり、出かける機会を作っている。現在では居室で一緒にテレビを見たり、落ち込みがみられる方に利用者同士慰めあったりと支えあいの関係が出来ている。		
34	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	別の場所に移られた方への訪問や、出会った際の声かけを行っている。		

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握

35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	現在、個別支援を積極的に行っている。本人の希望や意向を取り入れ実現できるように取り組んでいる。	○	今後も個人の思いや希望の把握が出来るよう、又本人が積極的に言える環境を作りながら、実現できるように考えていきたい。
36	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	認知症の方の対応にはこれまでの暮らし、生活歴を知ることとはとても重要なことと考え、本人やご家族にも協力をいただき把握に努めている。		
37	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	心身状態の管理（バイタルチェック等）行い、一人ひとりに係わる時間を出来るだけ作ることで現状の把握に努めている。又、その日の状態をこまかく介護記録に残すようにしている。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	出来る限り、ご家族にカンファレンス、担当者会議等に参加していただき、意見やアイデアを積極的に取り入れるようにしている。	○	本人、ご家族とのかかわりを持ち、関係者全体で意見やアイデアを反映した計画内容になるように考えていきたい。
39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のモニタリングと、居室担当者による検討内容の話し合いの場を作り、状況に即した対応を行っている。	○	今後も本人、ご家族との関係を密にしながら、変化に対応できる話し合いと、介護計画が立てられるように工夫をしていきたい。
40	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りによる記録の情報共有を行い、職員同志で工夫し、実践が出来るようにしている。問題点に対しては話し合いを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	要望に応じて個別の支援を行っている。現在同法人のデイサービスを利用され大変喜ばれている。又母体のクリニックを利用され、骨折後の歩行訓練等も行っている。ご家族が望まれる場合、医療との連携により看取りの支援も行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	毎月、音楽ボランティアの来園や、地域の子供との交流、年二回の消防訓練、市民センター行事の声かけをしていただき、文化交流等の参加を行っている。	○	今後は教育機関等の協力を求め、園児や、中学校などの体験学習による交流を考えている。
43	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在同法人のデイサービス等の利用を行っている。必要に応じて他の地域ケアマネジャーやサービス事業者と話し合い支援を行っている。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議において相談する機会があり、予防支援の観点から認知症の対応や入居者への相談等を行っている。		
45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月二回の訪問診療があり、本人やご家族の希望に応じて専門医の紹介を行っている。又、状態変化に応じて迅速に対応が出来るように連携を取っている。		
46	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	かかりつけ医に相談し、必要に応じて専門医を受診している。状態が安定すれば、かかりつけ医が診察し、本人の負担軽減に努めている。	○	本人が精神状態不安定で苦しんでいる際、かかりつけ医やご家族とも相談してご本人の負担軽減につなげていきたい。
47	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	利用者を良く知る看護職と健康管理について常時相談を行い、急変時等に医療との連携が取れるようにしている。		
48	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者入院時は病院関係者と情報交換を行い、かかりつけ医との連携で早期に退院できるようにしている。		
49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期について、本人及びご家族の意思確認書を取っている。重度化や終末期の段階においてはかかりつけ医との話し合いを行い、早期に対応できるように方針を検討し、共有している。		
50	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	今年1月終末期、看取りの支援をおこなった。かかりつけ医と連絡を密に行い、職員間で共有、変化に備えての対応を行った結果、ご家族が立ち会われる中、満足のいく支援が出来たと感謝される取り組みを行った。	○	今後、この経験を生かして、チームとしての支援のあり方がよりよいものになるように考えていきたい。

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
51	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ホームから住み替えを行った方に対して、転居先への添書を作成し本人への対応を含め情報交換を行っている。又自宅に戻られた方へ本人の馴染みの方のいるデイサービスを利用して頂くように支援を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	失禁等で本人がおちこんでいる際の想いを尊重しそっと見守り、さりげなく肌着を回収したり、命令的な言葉かけがないように配慮している。情報交換についても本人のいる前で話をする事のないように気をつけている。	○	今後、情報については繰り返し検討し、配慮にところがけていきたい。
53	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	雑談の中で本人の思いや希望が表せるようにまた、本人の力に合わせた納得のいく説明と決定が出来るように働きかけている。		
54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事にかかる時間や就寝時間、入浴等できるだけ個別に対応している。過ごし方についても個人が自由に過ごしていただけのように努めている。	○	何処まで希望に沿って支援できるかを職員同志で話し合い検討しながら、希望に添える環境作りをところがけていきたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	希望者には化粧をしたり、理美容は月1回訪問がある。本人の望む店への支援は行いが、現在はご家族が連れて行かれている。		
56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や献立後片付けに至るまで、利用者と一緒に行っている。身体的に難しい方も座って出来ることを手伝ってもらいみんなが一緒に参加できるようにところがけている。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
57	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	現在、タバコやお酒を好まれている方はいないが、おやつに関しては、食べたいものを買に行き、皆さんで食べたり、ご家族からの預かり分等を安全に食べれるように支援している。食べたいおやつを一緒に作ることも行っている。		
58	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	適切な対応により紙パンツを使用されていた方が布パンツになった例があり、定期的な介助が必要な方はさりげない声かけ、誘導したりパット交換が出来るように配慮している。		
59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	現在、毎日入浴を行い、日中、夕食後の時間希望に沿って入浴していただいている。又夏場シャワー浴を希望の時間にされる方もいて支援している。		
60	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	冬場足元が冷えて眠れない方にはアンカを入れたり、日中を心地よく過ごしていただくことで安心して就寝していただけるように努めている。寝具の布団干しやシーツ交換を定期的に行い安眠していただけるように努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴や力を活かした役割、楽しみごととして、家事仕事や園芸、買い物、外食に出かける等、一人ひとりの希望や声を聞き支援を行っている。	○	今後も、個々人の力や楽しみごとの支援を地域の方を広げていけるように考えていきたい。
62	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物等に出かけられた際、ご自分のおやつを小遣いで買ってこられたり能力に応じて支援している。		
63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	個々人の希望に沿ってが外出の機会を設けている。閉じこもりがちの方には声かけを行い、散歩に行くなどの支援を行っている。散歩は天気の日毎日出かけている。	○	公園や川など近隣の環境が良く、歩行状態の悪い方でも車椅子や、シルバーカーを使用し、今後も戸外にでかけられる機会を増やしていきたい。

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	「甘いものが食べたい、買い物に出かけたい」等の個々人の希望の声を聞き支援を行っている。	○	行楽地や、昔のことを思い出せる場所へ出かけるなどの声も聞かれ、ご家族等の協力を受けながら実現できるよう支援していきたい。
65	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望で、電話をされたり、手紙を書かれ、ポストに出しに行ったりと支援を行っている。	○	今後、季節ごとの手紙の支援を行っていけるように考えたい。
66	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	友人や知人の方が来られる方も多く、支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束においては、繰り返し職員間で話し合いや勉強会を行い事例を通して学んで、基本的に身体拘束の事実はない。		
68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	以前、勝手に不審者が侵入し、入居者が不安になった事実があり、玄関の鍵はかけているが、内部から入居者自身で開けることが出来、自由に外に出られている。又チャイムが鳴るため職員がすぐに対応できるので、さりげない支援が出来る。	○	面会者と一緒に出て行かれたりしたこともあるため、安全面を常に考え、今後も良い対応方法を職員で話し合い行っていきたい。
69	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に関わりを持って対応している為、所在や様子を把握し、安全に配慮している。居室内で気分不良をおこされたりすることもあるため、小まめな訪室をこころがけているが、プライバシーの配慮の面から頻回に訪室することはどうかを常に状況に応じて話し合い対応している。	○	今後も継続して取り組んでいきたい。
70	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	大量な洗剤等は鍵をかけて保管しているが、状態に応じて物品管理方法は違っている。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	マニュアルを作成し、毎月職員でリスクマネジメントの話し合いの機会を作っている。事例をもとにより良い防止方法を検討している。防災については、定期的に訓練を行い、知識を学んでいる。	○	誤薬、誤嚥等に関する知識及び対応を深める為に職員による毎月の内部研修を行っているが、今後さらに専門家（看護師等）による研修をおこなってきたい。
72	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルを作成し、内容についての確認は定期的に行っているが職員には事故発生当時の経験をいていない者もいる。	○	防災訓練と同じように、今後実践研修を行ってきたい。
73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、地域を交えた避難訓練等の参加を呼びかけ、協力を得られるように働きかけているが、前回参加人数が少なかった。	○	今後も地域に根気強く働きかけていきたい。町内会長様より、高齢者が多い地域のため、時間をかけて働きかけてほしいとアドバイスをいただいた。まずは地域との関わりを密にしていきたい。
74	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	常に状態を報告し、本人についての起こりうるリスクも含めて話をしている。	○	今後も状態に応じた対応が出来るように、ご家族との交流の機会を増やし、自然の暮らしが出来るように支援していきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調管理を行い、日常の変化等（心身）細かい部分の気づいたことを定期的に報告し、主治医の指示をもらう等の対応につなげている。		
76	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容確認、服薬確認等常時行い、症状に応じて処方された薬等は申し送りの徹底をして対応している。		
77	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	その方の状態に応じて、食べ物の工夫を行っている。水分補給や、便秘気味の方に対して繊維質の物を取り入れたりしている。又身体を動かすことを積極的に進めて散歩や体操等を行っている。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアは食事摂取ごとに声かけ行っている。歯ブラシ、コップ等の消毒や義歯の方の洗浄も定期的に行っている。月1回以上、事業所内の歯科衛生士により、口腔ケア指導を行っている。		
79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方に応じて、(糖尿病、嚥下障害等) 摂取量や栄養バランスを栄養士に相談し行っている。又摂取した水分量、食事量のチェックを行い、栄養低下や脱水にならないように習慣、状態に応じて支援している。	○	現在、献立は職員で考え栄養士への相談は不定期に行っている。今後毎月定期的に見てもらい、栄養面でよりよい献立内容になるように考えていきたい。
80	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルが有り、都度対応している。インフルエンザ等の感染時期がある場合は、予防接種や、手洗い、嗽の励行、その他消毒などを強化し、予防している。		
81	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具は毎日消毒を行っている。食材は出来るだけ新鮮な物を購入、賞味期限日等チェックを入れるようにしている。現在自家菜園に取り組んでいる。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	表示等を行っているが、玄関が勝手口より奥にある為、勝手口をノックして来られる方が多いが、ベランダが通りに面していることで、通学途中の小学生たちが声をかけてくれる。	○	今後、建物周辺を親しみやすい環境にしていこうと、玄関表示をわかりやすくするように考えていきたい。
83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関周りは、入居者と花を植えたり、散歩途中に咲いている草花をリビングに飾っている。共用空間部分のリビング、台所、トイレはフロアー内に繋がっており、生活の音は常に聞こえている。リビング内のトイレは暖簾で目隠しを行うなど配慮している。	○	入居者にとって心地よい環境になるように、今後工夫していきたい。

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者それぞれが気に入った場所があったり、入居者同志の部屋で過ごしたりされている。		
85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内はご家族と本人が使い慣れたものを持参されているため、それぞれその方に応じた環境になっている。	○	心地よい環境は、身体状態の変化によりかわってくる為、状態に応じて考えていきたい。
86	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	室内温度計や外気状態をみながら都度、換気は行っている。特にリビング内のトイレの臭いがないように注意を払っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行不安定な方も廊下等の手すりをつかって自立で歩かれています。居室扉が途中にあるため、手すりが途切れている部分は入居者の状態に応じて介助を行っている。		
88	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	入居者の中にクリーニング店経営・鮮魚店経営等様々な職種の方がおられ、その技量を発揮できる機会を作っている。		
89	○建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダには、入居者がそだてている植物があり、外の景色をみて過ごす方も多し。外回りは、ベンチもあり、野菜作りをたのしんだり されている。	○	今後空いた部分の土地に花や野菜を植え、入居者にその植物を成長させることの生きがいを持たせたい。

番号	項 目	↓ 取 り 組 み の 成 果 (該当する番号欄に○印をつけること)	
V. サービスの成果に関する項目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない

番号	項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する番号欄に○印をつけること)	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
100	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない